

三笠 ニュース

発行所
東京都千代田区錦糸町1-4-3
三笠産業株式会社
電話 東京 (292) 1411 大代表
テレックス 222-4607
郵便番号 101
PR句報 年4回発行

'84 新製品

一挙に発表

今夏より順次発売
前後進型バイブロコンパクター
オイルバス式ハイジャンプランマー
カッター・インパクトローラー
「三役」・「如意棒」等、

先頃開催された東部及び西部の三笠代理店会に於いて、三笠技術研究所の成果を世に問う今年度の新製品が発表披露され、席上大きな反響があった。今回発表されたのは前後進型バイブロコンパクターシリーズのなかで最軽量、この機種としては最初に散水装置（オプション）を備えたバイブロコンパクター MVC-R85型。グリスアップのいらぬオイルバス潤滑、大きな跳びはねで強力な締め固め性能のタンピングランマー MT-65型。ダイヤモンドブレードの昇降がレバーのワンタッチでできる操作性に優れた防音装置の取付可能な中型のコンクリートカッター MCD-33型。両輪駆動で前輪上に二軸偏心式の強力な起振装置を備えた全油圧駆動のインパクトローラー MVR-14型。高周波バイブレーションの電源をはじめ、溶接ならびに単相交流電源として三通りに使えるエンジンゼネレーター「三役」MFWG-333型。その名も「如意棒」作業場所に適したご希望の長さのものを選んで高周波棒バイブレーション MVR-PF型等の各種の新製品である。

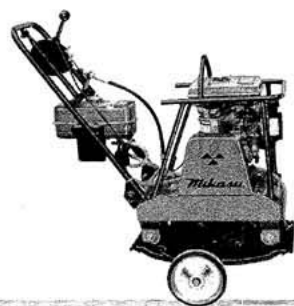


MVC-R85型
バイブロコンパクター（前後進自在型）

前後進する軽量小型のバイブロコンパクターのシリーズをこのところ毎年続けて発表しているが、三笠産業の技術陣は今年も MVC-R85型バイブロコンパクターを送り出した。

MVC-R85型は型式に示すとおり、重量は僅か85kg。前後進型のコンパクターとしては、今のところ最も軽量である。Rの記号は reversible 略。ブレードコンパクター MVC-70型または90型等との識別のためであり、前後進型を意味するもので、ブレードコンパクターと同様に手軽に扱うことのできる軽量小型機と言うことができよう。

前進のみのコンパクターと比べ



（フック付フレーム・散水装置と移動車（いずれも別売）を取付けた MVC-R85型）

手許のレバーを操作するだけで後進して作業できるということ、はどれだけの能率が向上するか、一度でも三笠の前後進型バイブロコンパクターに触れたことのある方ならお分り頂けることと思います。

三笠の前後進型バイブロコンパクターは大きい方から順に重量300kg級のものには7PSの空冷ガソリンエンジン付と6PSの空冷ディーゼルエンジン付の二型、200型シリーズには空冷ガソリンおよびディーゼルならびに水冷ディーゼルをのせた六型式と最も多く、100型シリーズは5PSの空冷ガソリンエンジンをのせた二型、この度の MVC-R85型はこれにこの度の MVC-R85型を加えると基本型式だけで大小取まぜて十一型式の多きにのぼる。

このうち型式によってはエクステンションプレート（補助輾圧盤）を取付けることができ、三笠の前後進型バイブロコンパクターはさまざまな要望にお応えできる態勢を整え、シリーズ化が一層充実した。

MVC-R85型の特長とすると、これは、手許のレバー操作で前後進が簡単にできること。二人で持ち運ぶ、積み降すことができる程度の目方で、今まで三笠が作ってきた前後進型コンパクターのなかでは最も軽量の85kgである。さらに特筆すべきことは、前後進型としては初めて散水装置が装着可能となったことである。オプションとして用意されたこの散水装置は前後進の操作レバーに連動してコックが自動的に切換えられて、前へ進むときは輾圧盤の前縁から水が出て散水し、後進するときは後の

方からだけ水が出るようになっていて無駄なく有効に散水することができ、この他に一点吊りのフック兼用のガードフレーム、運搬に便利な移動車等もご要望に応じて取付けることが可能である。

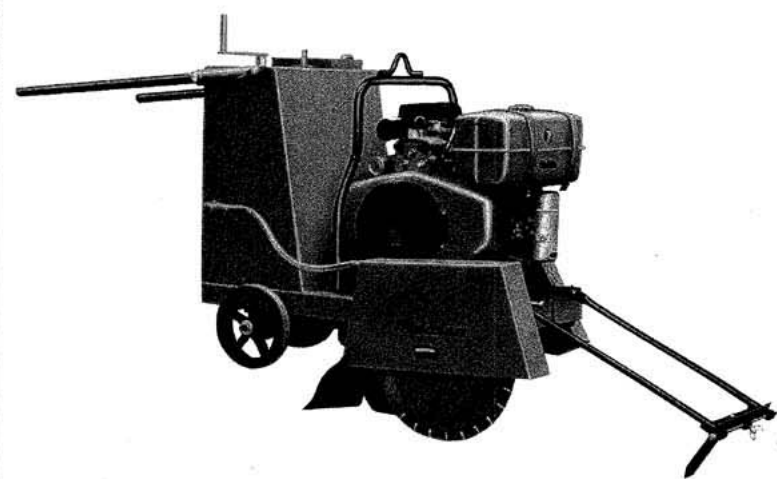
MVC-R85型バイブロコンパクターは九月中旬より発売が予定されています。



MT-65型
タンピングランマー

MT-65型仕様
機体の寸法(mm) 高 950(790~990)
()内は作業時を示す 幅 324
長 510(690)
衝撃板の寸法(mm) 幅 285
長 339
衝撃板のストローク(mm) 60~70
衝撃数(毎分) 600~690
打撃力(毎回) 700~750kg
使用エンジン ロビンEC10G
4PS 2サイクル
回転数(毎分) 3600
重 量 65kg

MVC-R85型仕様
機体の寸法(mm) 長 845
高 885
輾圧盤の寸法(mm) 長 520
幅 330
振動数 3700~3900
(V.P.M.)
度 17~20
(m/min)
坂能力 20°
登速 1400kg
使用エンジン ロビンEY15D
3.5PS/4000r.p.m
重 量 85kg

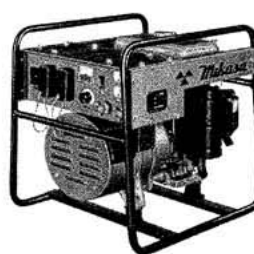


MCD-33型 コンクリート カッター

中型コンクリートカッターの標準的な機種として長い間生産された MCD-33型がフルモデルチェンジされ MCD-33型として登場した。エンジンは3型と使っていたと同じ空冷式水平対向15PS、これにより駆動されるダイヤモンドブレードは12から22までの各サイズを取付けることができ、切削できる最大深さは210mmである。最も多く使用される18"のブレードカバが標準装備されていて、22"用ブレードカバは特別注文に依り装着される。市街地等で作業する場合にコンクリートカッターから発生する騒音を低減させる対策として、三笠の実用新案になる MCD-33型専用のジャバラ式防音装置が用意されている。これを取付けて作業すると、水冷エンジンにカバーされている MCD-33型SP型カッターには及ばないが、騒音は10dBほど下げることができ、ブレードの昇降装置には MCD-4型に採用した同じ機構で、スプリングを利用したレバーのワンタッチ操作により、切込み深さを決め、急速にブレードを上げることができ、簡単な使用に勝手の良い昇降装置が使われている。冷却水を入れるタンクは50ℓの容量のものが装備されて

MFWG-333型高周波エンジンゼネレーター/溶接機仕様

	高周波電源	溶接電源	交流電源
出力	3.1KVA	2.5KW	1.5KVA
電圧	48V	25V	100V
電流	37A	100A	15A
相数	3相	—	単相
周波数	200Hz	—	65HZ
溶接電流範囲	—	60~110A	—
プラグ差込み口	2口	定格使用率40%	2口
溶接棒(最大)	—	3.2mm	—
回転数	4000r.p.m	←	←
エンジン	メイキG710P 7.5PS/4000r.p.m リコイルスターター付		
乾燥重量	70kg	寸法 長635mm 幅490mm 高555mm	タンク容量 5ℓ



MFWG-333型
高周波エンジンゼネレーター

MCD-33型仕様
使用ブレード寸法(mm) 305 (12)
()内寸法 356 (14)
457 (18)
559 (22)
切断深さ(mm) 85~210
ブレード軸径 27mm
(1 1/16")
切断深度調節装置 手動スプリング式
冷却装置 重力注水
遠心力噴射式
(50ℓ水タンク付)
機体寸法・重量 長2500 幅720
(mm) 高1050 重量255kg
使用エンジン ロビンEY21AS15PS

いて、ブレードの冷却方式はノズルからとび出した水がブレード外周に添って先端のチップまでまんべんなく冷却する三笠独自の遠心噴射方式である。後車軸には差動歯車機構を用い、線合わせやマス切りの際、機体を動かすことができ、扱い易さが一段と向上した。発売は八月中旬が予定されています。

東部地区

三笠代理店会催さる

五月十六・十七日 伊東にて



才二十七回東部地区三笠代理店会 於伊東温泉ホテル及びS 59. 5. 16

風薫る五月の恒例行事、第二十七回、東部地区三笠代理店会が国内代理店三十六社、輸出商社十四社、報道関係七社の方々をお招きして、十六、十七日の両日、静岡県伊東市の「ホテル多比」で開催された。先週末の夏を思わせるような青空と、うって変り、関東地方一帯は今週に入ってから異常低温の肌寒さとなり、この日は三月下旬なみの気温に加え、今にも雨が降りそうなる空模様であったが、定刻の十一時三十分までは、かねてお馴染みの代理店の皆さんの元気な顔が、東京駅八重洲中央ホール、銀の鈴附近に設けられた受付場所にお見えになった。十二時〇〇分発の踊子十一号にて一路伊東へ向けて出発した。

伊東駅に着時、既に雨も降り始めており、ホテルのマイクローバスに分乗して会場へと向った。海辺に面したホテルの裏庭の特設実演場には、これまで今年度の新製品が展示され、降りしきる雨の中で弊社技術研究所の面々が、熱を込めて実演、説明した。今回発表された新製品は狭いところや深い場所でも使い易い高周波パイプレータ「MVC-R 85型」、世界で最も軽い前後進型コンパクト「MVC-R 85型」、レバーのワンタッチでブレードが昇降する中型のコンパクトカッター「MCD-33型」、全油圧駆動の強力な輾圧力をもったインパクトローラー「MRV-14型」の六機種、特殊な現場で使用される各種アタッチメントも発表され、正にお客様のニーズに合わせた三笠の技術力をお見せする事が出来た。約一時間に亘る実演説明会を終了後、場所をホテル内会議室に移し第二部の代理店会

才27回東部地区三笠代理店会



(力強く決意を披瀝する京谷社長)

会議を行った。席上、京谷社長は「平素、三笠製品の販売、レンタル機械としての採用を海外への輸出、公報、宣伝等それぞれ分野での御尽力に感謝致します」と冒頭の挨拶に引き続き、「内外共に建設業界を取り巻く環境は厳しいが、メーカーとしての低価格を打ち破り、業績の向上を目指して技術開発に全力をあげており、パイプレータ部門と輾圧機部門を完全分離し、生産の合理化、コスト



(雨のなかで熱心に実演説明する設計担当者)

昭和59年度 西部地区三笠代理店会 盛大に催される

5月22日(火)～23日(水) 大阪にて



昭和59年5月22日 於：ロイヤルホテル

恒例の昭和五十九年度「西部地区三笠代理店会」が二年ぶりに開かれ、去る五月二十二日、二十三日の両日、水の都、商業都市の大阪府北区中之島の「ロイヤルホテル」に於いて代理店並びに来賓、報道関係多数の御参加を得て華々しく開催された。二十二日(火)11時40分、大阪駅西口前のホテル阪神に御集合され観光バス二台に分乗して、大阪国際見本市会場敷地内の野外特設実演場にて行なわれる第一部新製品発表会場へと向った。



(懇親会に先立ち挨拶を述べる小野社長)

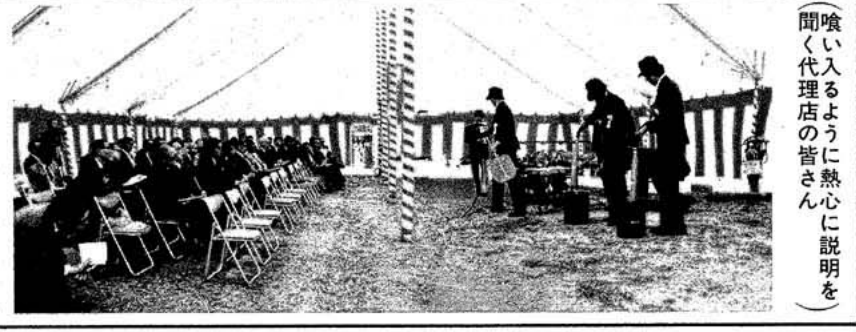
十二時40分定刻より新製品発表実演説明会が松下技術部長の挨拶を皮切りに、磯部部長を初め各担当員より説明があり、今年の新製品は、大きく高く跳びはね、強力な締め固め能力を持った軽量化性能のオイルバス式ハイジャンプランマーの「MT-65型」を初めとして、重量僅か85kg、世界で最も軽い前後進型のパイプコンパクターの「MVC-R 85型」、路盤の基礎締固め用の超強力型で、特に盛り土、軟弱地盤でその力を発揮する「MRV-14型」インパクトローラー、カッターの標準型ともいえる長い歴史を持つ「MCD-33型」の後継機である50kg入りの大型水タンク装備、作業軽快、運転静粛の「MCD-33型」コンパクトカッター、インヘッダーの愛称でおなじみの三笠の高周波パイプレータの技術を活用し、狭い場所でも扱い易い「インヘッダー」如意棒、又一台でインヘッダー、用電源、溶接機、単相交流電源と三通りになすエンジンゼネレーター「三笠」と次々に実演説明が行なわれ各代理店の方々も実際に手に触れ、運転を体験されその感触を確かめられ、特にR 85型コンパクトカッターと「三笠」は好評を博した。

引続いて休む間もなく、第二部の代理店会をロイヤルホテル二階の間に於いて14時20分より開催。三笠建設機械株式会田取締役の司会にて、まず始め

三笠建設機械小野社長より「この数年間の安定成長に名をかりた低経済成長の中にあつて我々の属している建設機械業界は大幅なマイナス成長を余儀なくされている。しかし、我々の三笠グループは奇をてらうことなく、独自の技術、販売ルートで堅実に歩んでいる。高周波パイプレータは全国でトップのシェアを堅持するため我々は技術的に秀れた製品を、誇りをもってユーザーに供給している。一層販売に力を傾注して欲しい」と力強く語られ、また三笠産業(株)京谷社長より「国内は景気回復がいわれつつありますが公共投資額、住宅着工件数とも低迷しており建設業界にとっては厳しい環境にあります。しかし、たゆまぬ技術開発力の強化により新製品を開発することで、この状況を打破していく所存です。そのために、技術開発面でパイプレータ部門と他分野を完全に分離し、開発体制を刷新し一層の拡充策を図りました。今年も六種のモデル刷新や大幅改良した機種をそろえました。みな様の販売戦略に役立てていただきたいと思います。又本年度は春日部工場の建設にも着手し、品質管理のゆきといた新製品をユーザーにお届けします」との挨拶があり代理店並びに来賓の方々の御紹介があった。



続いて三笠産業(株)吉田専務より先程の実演発表した新製品をスライドにより性能、品質に付いて説明された後、質疑応答に入ると今までシーンと静まりかえつた会議室が俄然、賑わくなり矢張り早やに鋭い質問がとび出した。



(喰い入るように熱心に説明を聞く代理店の皆さん)

「豊かな東北をつくる」 建設機械展示会(仙台展)

盛大に開催される

若葉のみどりもまじり、新芽美しい都仙台にて、日本建設機械化協会主催の建設機械展示会が十三回目、四年ぶりに四十数社(四〇〇機種)のメーカー協賛で、五月二十四日から五日間、仙台市原町四丁目において盛大に開催された。東北地方も今後河川、道路、ダム、港湾、下水等の建設事業が益々活発化するにあたっての展示会であり、各メーカー共新鋭機を出品してPRにつとめた。我が三笠産業は、会場中央の開口20mの展示小間に、高周波バイブレーターを始めプレートコンパクター、ランマー、ローラー等主力製品と84年度の新製品を勢ぞろいさせた。中でも特に注目を集めたのが、高周波バイブレーター/溶接機/単相交流発電機と三通りに使えるMFVGR-333型(三役)。前後進バイプロコンパクターで僅か85kgと世界で最も軽く使いやすいMFVGR-85型。オイルバス式でハイジャンプ、強力掘き固めができ、手ばなしで運転しても倒れない安定性抜群のMT-65型の三機種が人気を呼んだ。中には会社で電話を入れ、関係者に見にくるよう指示される方や、いつ発売になるんだとの問い合わせや、一斉機をうちに廻わしてくれとご注文される方も数多くあった。今回の展示会で、ユーザー、ディーラー、レンタル業者の皆様方に三笠の最新時代のニーズに対応した誠意を見て頂けたことは大変大きな成果であり、有意義な展示会であった。次に掲げるのは展示会の毎日の印象を会場詰員が綴ったものである。三笠の展示場の盛況ぶりを想像いただければ幸いである。

五月二十四日(木)

今日から展示会の幕開きである。朝から雨降りの天候にもかかわらず、午前十時の開会式前から、かなりのお客様が各メーカーの展示機械を見て廻られていました。

新製品を中心に数多くの機械を展示した三笠の展示場にも早くからユーザーさん、ディーラーの営業員の方々が機械を見にこられ、熱心に質問されており、数多い展示品の中でも新製品のMVGR-85型バイプロコンパクター、MT-65ランマー、MFVGR-333(三役)



(開会式の模様)

には皆様一様に関心を持って見ており、「これは便利だ」「大変に良い機械だ」との声が聞かれ、朝からの雨も夕方には小降りになり、お客様も又、私達も雨にぬれての大盛況の一日でありました。

河合記

五月二十五日(金)
建設機械展第二日は、前日の様な雨に邪魔される事なく、三千人を越えるお客様が来場された。

弊社の展示場にも多数のお客様が見えられ、新製品を中心に熱心に質問される方、また実際に製品を手にとられ動かしてみようなど大いに賑わった。

新製品の中でもMVGR-85(前後進型)や、高周波電源、100V電源、溶接機と一台で三通り使用出来るMFVGR-333(三役)が特にお客様から省エネにピッタリの物だと、注目の的となった。来場されたお客様が各地域、各部門に戻られ、展示会で得られた事を基に大いに活躍されることを期待するとともに、私を始めとする三笠マンも、お客様より受けました貴重な御意見を今後の仕事に生かして行きたいと思ひます。

菅原記

五月二十六日(土)

前夜の霧雨も上がり、快晴に近い空模様となった。機械類を覆っていた雨よけのビニールシートを外し終るや否や、最初のお客様を迎えた。

予想していた通り、県外からも多くの方が見えられ、場内は大いに賑わった。各地のディーラーの方々がユーザーさんと一緒にいらしたり、あるいは研修を兼ねて見学されたり等、様々であった。

取り分け、新製品の多い三笠の展示場では、それらの機械が運転できる状態にあり、多くの

五月二十八日(月)
いよいよ仙台北建設展も最終日となり、前日に引き続き、展示会日和の素晴らしい天気である。二十六日(土)、二十七日(日)の両日は、来場者もぐんと増え、展示会フィールドという感じで、我々社員も、商談や新製品の説明に忙殺されたが、本日はどうかという朝のうちは「祭のあと」という感じで、展示関係者の動きが目立つ程度であったが、昼近くから来場者も多くなり、三笠の小間では、前日並の忙しさとなった。当日発表された来場者数は二千五百名程度で、二十六日、二十七日の半数程度であった。三笠の展示小間で人気があったのは、やはり新製品の演習コーナーで、R85型の前進コンパクターの今後の販売に手応えを感じた。また常時運転していた3LA型ポンプが目立ち、その排水量の多さに目を見張るお客様が多く、東北でのこのポンプの裾野の広がりを感じた。

(注目された前後進コンパクターが)



方々の手によって実際に動かしていただいた。「使い易い」「便利だ」「良く考えたものだ」等の声があちこちで聞かれ、大盛況の一日であった。

和泉記

五月二十七日(日)
入場者数六五〇〇名、展示期間中最高の入場者数であった。五月晴れの中、朝九時の開場時から沢山の御来場者が三笠の展示小間に押し寄せ、青森の代理店の皆様は朝四時に車で出発され、ユーザーさんと朝一番に会場につかれたり、能代第一の店さんの様に会社全員でバス一台貸切で勉強の為見学に来られたり、青森、秋田、岩手のお客様方が朝早くからお見えになり、昼頃には福島、山形、宮城のお客様も続々とお越しになっていた。

特に三笠84年新製品MVGR-85型バイプロコンパクター、MT-65型タンピングランマーやMFVGR-333型高周波バイブレーター(三役)等が人気を集中し、発売迄待てないという注文を沢山いただいていた。とにかく、終日忙しく充実した一日でした。

小林記

五月二十八日(月)
いよいよ仙台北建設展も最終日となり、前日に引き続き、展示会日和の素晴らしい天気である。二十六日(土)、二十七日(日)の両日は、来場者もぐんと増え、展示会フィールドという感じで、我々社員も、商談や新製品の説明に忙殺されたが、本日はどうかという朝のうちは「祭のあと」という感じで、展示関係者の動きが目立つ程度であったが、昼近くから来場者も多くなり、三笠の小間では、前日並の忙しさとなった。当日発表された来場者数は二千五百名程度で、二十六日、二十七日の半数程度であった。三笠の展示小間で人気があったのは、やはり新製品の演習コーナーで、R85型の前進コンパクターの今後の販売に手応えを感じた。また常時運転していた3LA型ポンプが目立ち、その排水量の多さに目を見張るお客様が多く、東北でのこのポンプの裾野の広がりを感じた。

小笠原記

MQ社のトップディーラー来日

当社の米国代理店マルティン・イップ社の83年度優秀ディーラー五社の一行七名が、日本視察旅行で当社の館林工場及び技術研究所を訪れました。

四月十五日、前夜成田に着いたばかりの一行は旅の疲れも見せずに朝早くから宿舎のバレーホールのロビーに進まり、なごやかな雰囲気の中、同行する我々にも気さくに接してくれました。

午前八時、チャーターしたサロンの車でホテルを出発。一行は初めての日本訪問であり、車窓に見える東京の風景を見ながら、いろいろと細かい質問も飛び出し、今回の日本訪問に対する期待の大きさが伺い知れました。

館林市内で昼食をとり、一行は次の目的地、技術研究所へ向いました。

技術研究所では、吉田専務と春日部工場の長谷川工場長の出迎えを受け、早速、所内で新製品の試運転をディーラーの方々に実際に体験して頂いた。その後会議室に於いて活発な質疑応答を行ない、三笠製品に対する信頼感を一層深めて頂いたと思う。

ひと通り見学を終えたあと、東京に戻り、ホテルで休息の後、夜は日本料理を楽しんで頂きました。

一行はその後鳥羽・京都を訪れ、二十二日に無事アメリカへ帰国されました。

輸出二課 金子記



(慣れない手つきで日本料理を楽しむ一行)

北欧の展示会に参加して

スウェーデンのストックホルムとノルウェーのオスロで開催された展示会へ応援として出張を命ぜられ、海外の建設機械展示会の雰囲気とヨーロッパの新型建設機械に触れることができた。

五月二十一日(日)定期九時ストックホルムに着、現地ディーラー社長等に出迎われ翌日より展示会場に詰め。会場は東京の晴海くらいに広さ。各種催物場として使われているところも晴海と同じだ。この展示会は「北欧建築展」と銘づられ、建設機械だけでなくカーペットから鉄骨に至るまでが展示され、小型建機の斬新なデザイン、ユニークなアイデアに感心する。日程

館林工場にて



(広々としたのどかな展示会場 オスロにて)

MVI-PF型 仕様		
型式	PF30型	PF40型
振動筒の寸法	径31mm	42mm
(パイプ部分を除く)長さ	390mm	400mm
標準全長	5800mm	←
(ヘッドよりホースまで)		
電圧	48V(3相)	←
周波数	200/240HZ	←
入力(定格)	0.29KVA	0.5KVA
振幅	1.7mm	1.5mm
振動数(V.P.M)	11,000~12,500	←
コードの最大	100m	70mm
使用長さ(振動筒3mm)	(←)	
重量(コート含まず)	8.4kg	12.7kg



如意棒高周波バイブレーター



MRV-14型 インパクトローラー

MRV-14型 仕様		
機体寸法	高1570	幅870
	長2376	
ローラー寸法	外径508φ	幅760
振動数	1300v.p.m	振幅13
重量	1,510kg	
走行速度	0~4.8km/h(前進)	
	0~2.6km/h(後進)	
登坂能力	18°	回転半径1.6m
総重量	1,390kg	
使用エンジン	いすゞ2KC1	14PS
燃料タンク容量	15ℓ	
オイルタンク容量	56ℓ	

走行・操縦装置等全油圧駆動。大きな振動と強烈な振動の基礎インパクトローラー。両輪駆動で前輪は軟弱地盤に強いシールスフート、安全確保のためデッドマンコントロールを装着。運転のすべりでは手許のレバーで集中制御、九月末から発売の予定。



新電気株式会社
水戸営業所をオープン

新電気(株)さん(本社東京都千代田区 社長小沼光雄氏)では水戸営業所(茨城県那珂郡那珂町向山一五九一三)を五月八日にオープンした。

場所は水戸市と日立市のちょうど中間点にあり、どちらの方面にも短時間で納入できる大変よい場所に位置している。同営業所は茨城県内に於いては鹿島土浦に次ぐ三番目の営業所であり、茨城県北部に於ける同社の営業基盤を更に強化するために

開店されたものである。オープン直後には数多くのリース機のご注文を頂き、さすがは新電気さんと、我々は驚くばかりであった。

又、佐藤所長をはじめ所員の皆様も活気に満ちあふれている。今後とも最大限の協力をさせて頂くと共に水戸営業所の皆様のより一層のご活躍と益々のご発展を心よりお祈り申し上げます

東販一課 高橋記



(新電気株水戸営業所)

春日部市商工会館竣工 落成式盛大に行わる

三笠の春日部工場のある埼玉県春日部市の商工会館が市内を流れる古利根河畔に完成し、地元市役所や県庁をはじめ各界より多くの来賓が参集して四月十一日午前十一時より落成式が執り行われた。我が社の春日部工場長の長谷川専務は商工会の副会長でもあり、ホスト役として大忙しの日であった。

関係商工会長の挨拶で始まった式典は各界来賓の祝詞で盛り上りを見せた。

建設経過報告によると、長年の懸案であった商工会館の建設は昨年一月に実行委員会を組織し、九月末には起工式を行い、本年三月末に完成の運びとなった。まことにあざやかな仕事の進めぶりであり、それぞれの任務を遂行された方々の苦心とご努力の程が窺われる。

落成式は商工会館は三階建て床面積一、二五〇平方メートル、採光の良い明るい建物の内部で目につくのは藤の花と同じ配色が多用されていることである。これは春日部の名所牛島の藤にちなんだものと聞く。扉を開放すれば広々と大きく使えるよう工夫をこらした会議室。眼下に古利根川を眺める使い勝手の良さそうな研修室などいろいろと設備が整っている。商工会館の前を流れる古利根の両岸には、ずらりと桜が植えられていて、いずれはここが春日部のお花見の名所となり、新しい商工会館が春日部市発展の拠点となることであろう。



春日部商工会
関根会長

森記

輸出2課が優勝！ 昭和58年度販売コンクール

六月二十五日の誕生会に先立ち、五十八年度の最高成績を収めた課に授与される優勝賞状が、輸出二課にわたされました。

受賞の喜びを徳永課長は次の様に語ってくれました。

「この一年間は我々の運が良かった。特にアメリカの景気が回復し、好調に推移した事が幸いしている。我々がこの成績を挙げたのは全社的な協力、殊に技術研究所、館林及び春日部両工場の全面的な協力を得られたお蔭と感謝しています。本年度もまた課員一丸となって目標達成を目指して頑張り度く

(喜ぶ輸出二課のメンバー)



何卒ご協力の程お願い申し上げます。

輸出課が輸出一課・二課とにわかれて三年目に入った五十八年度は優秀な成績で飾られたことは、徳永課長の指導と課全員の協力体制がもととなり、輸出二課としての総力の結果が幸運をもたらしたと思われまふ。

営業部各課の皆様には今後益々の御活躍を期待します。

総務課 阿部典子記

佐藤建設機械販売(株) 新社屋落成

三笠の永年の取引先である佐藤建設機械販売(株)社長佐藤哲雄氏、本社福島市八島田字田四番一(一)さんにおかれましては、この度、創立二十五周年を記念して、めでたく新社屋工場を落成され、四月二十四日盛大に落成披露を催された。当日は弊社からは平戸常務と大沢仙台出張所長が駆け付け、お祝いを申し上げた。

新社屋は、敷地総面積八八〇㎡、延床面積五二二㎡という広い事務所の建屋をもち、また総床面積三六〇〇㎡という工場倉庫から成っている。まことに立派な社屋である。

当日は同時に主なメーカーの主力機械を広い敷地に展示し、お祝いに参集された多数のユーザーにあらためて御紹介し、今後益々のご愛顧をお願いした。弊社の展示コーナーでは、前後進のバイプロコンパクターシリーズ

一ツが注目され、多数の引合いをいただいた。

佐藤建設機械販売(株)さんの今後益々のご発展と社員の皆様の健康をお祈りいたします。

仙台課 小笠原記



(広々とした新社屋)

技術教室

第23回

高周波パイプレーターを指定された周波数以外の電源に接続するとどうなるか教えて下さい。

長野県橋本さんの御質問にお答えします。

ご存知のように通常の商用電源は、東日本は50ヘルツ、西日本は60ヘルツの周波数が供給されて居ります。

商用電源の周波数が2極のインダクションモーターをまわすと、一分間の回転数は周波数の60倍となります。

50×60=3,000
60×60=3,600

即ち、50ヘルツでは毎分3,000回転、60ヘルツでは毎分3,600回転します。ついでに申しますとモーターの極数を2で除した数字で答を割らねばなりません。この場合は、50×60÷2=1,500
60×60÷2=1,800

となります。

インダクションモーターに通電する周波数を大きくすると回転数も大きくなります。

いま200ヘルツの周波数の電気を流すと200×60÷2=6,000、2極のインダクションモーターは、一分間に12,000回転します。大変、荒っぽい説明ですが簡単に言えば、これが高周波パイプレーターです。高周波パイプレーターは振動筒に内蔵されているモーターと振子が直結されているので、モーターの回転数に比例して振動数も考えることが出来ます。

一般的にコンクリート打設に最適な振動数は、毎分900から1,200回転位で打設した場合が空隙率の低減が計れ、理想的な強度等が得られると云われて居ります。

その回転数をインダクションモーターによって得るには、商用電源の周波数を上げねば

なりません。それに基づいて周波数変換機は、設計され、三笠インヘッダー(高周波パイプレーター)の専用駆動電源となつて居ります。

FC型コンバーター(周波数変換機)は、一般の商用電源、三相200ボルト、50又は60ヘルツを入力し、コンバーター出力側で低電圧(安全ボルト)の48V、55ボルト、周波数200ヘルツの高周波数に変換されていきます。高周波数に変換されていくにつれて、周波数を4倍にアップする高周波パイプレーターを、毎分12,000から14,400回転させることが出来ます。

MFG型高周波エンジンゼネレーターに於いても同じく、出力駆動電圧は、三相48V、56ボルト、周波数200ヘルツ(130型)は12,000回転の振動となり、150ヘルツの周波数では3,000回転の差が生じます。3,000回転の差が生じますので、インヘッダーの規定の性能を発揮できないで、満足なコンクリート打設が出来ないと同時に故障の原因となりますので、各メーカーの仕様に基いて使用されることに依り、インヘッダーの性能を十分に引き出し得るものと思ひます。

充分に発揮させることが出来ますが、御質問のように一般商用電源の100V、200ボルト、周波数50又は60ヘルツにインヘッダーを接続し、運転した場合、高圧ボルト及び周波数が低いため、モーターを焼損させると同時に危険性があります。又、安全ボルトであつても周波数が低いとそれだけ回転数が低くなり、高周波パイプレーターとしての性能を発揮することが出来なかつた時に故障の原因となります。同様に150ヘルツの周波数でのインヘッダーを使用した場合、その回転は、毎分9,000回転の振動となります。三笠のインヘッダーでは、最低の周波数が200ヘルツですから、その回転は12,000回転の振動となり、150ヘルツの周波数では3,000回転の差が生じます。3,000回転の差が生じますので、インヘッダーの規定の性能を発揮できないで、満足なコンクリート打設が出来ないと同時に故障の原因となりますので、各メーカーの仕様に基いて使用されることに依り、インヘッダーの性能を十分に引き出し得るものと思ひます。



(三笠インヘッダーは正しい電源でお使い下さい)